

第3章 研究のまとめ

今年度私達は、事例を検証する中で、それぞれの学年のスローガンに照らし合わせた考察と指導計画の再編成に向けての視点を明らかにすることを積み重ねてきた（紀要10ページ～69ページ）。加えて、事例や週案、実際の幼児の姿をもとにしながら、月の指導のまとめを作成してきた。

ここでは、その積み重ねの中で見えてきたものを明記することにする。

1. 指導計画の再編成に向けて

(1) 視点の導き出し

各学年の事例を検証する中で、指導計画の再編成に向けて、この視点を生かしていきたいというものがいくつか明らかになった。これらの視点は検証した事例に留まらず、話し合いの中で出てきた日頃の幼児らのエピソードやこれまでの幼児らの姿を振り返ったときに改めて重要だと共通理解してきたものである。その視点とは

- ・ 自然
- ・ 健康
- ・ 育ち
- ・ つもり
- ・ 関係性
- ・ 異年齢
- ・ 幼小連携
- ・ 家庭との連携
- ・ ルーティン
- ・ 行事
- ・ ティーム保育

の、全部で11である。

これらの視点のうち、育ち、つもり、関係性、ルーティンの4つについては、昨年度の私達の研究で「創る生活」の捉えを明らかにした際に、それに迫っていくために重要視していきたい側面と共通している。このことから、当園の教育目標及び研究テーマに向かうときに大切にすべき視点だということが再確認できた。

幼小連携の視点については、幼児と児童が同じ場を共有し、共に活動する中でそれぞれに学びがあることが見えてきた（P10、P53の事例）。幼児の学びにスポットを当てると、小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが存在がモデルとして機能し、その後の生活ぶりに大きく影響していくことが明らかになった。このことは、園内の異年齢とのかかわりの事例（P48の事例）にも言えることである。地域の中でこういったかかわりの場がほとんど見られなくなった近年、教育の場で意図的、計画的に取り組んでいくことが重要になっていくであろう。

家庭との連携の視点について、事例では幼児の育ちを共通理解し共に支えていこうとしたり（P13の事例）、健康という側面からのアプローチ（P63、P66の事例）が取り上げられてい

るが、その他にも、これまで以上に保護者が様々な形で幼稚園の活動に関与している。具体的には、ボランティアとして園芸サークルを立ち上げ、年間を通して活動を行っていたり、お母さん先生と称して絵本の読み聞かせや折り紙をしたりといったことである。そのことが、保護者の側の幼稚園理解の深まりに大きく影響していることを感じている。それ故、この視点を指導計画の中に盛り込んでいくことは意義あることだと考える。

自然の視点について、これまで、私達の研究が他者とのかかわりの中の自分づくりや、関係性といった、社会性を意識したものだだったので、今年度の事例（P14、P26）から、やや弱かったのではないかと反省させられた。特に、最近の幼児の姿から自然とのかかわりの場と時間を保障したり、意図的に環境設定したりしていくことは、知的好奇心を揺さぶり、身体を通して学んでいく姿を支えるために大切になってくることが再確認された。

同様に、健康という視点についても、個々の幼児に対して養護教諭からのアプローチがあったり、連携して、計画的に集団指導をしたりといったことを日常生活の中で積み重ねる中で、改めてその重要性を確認し、指導計画に位置づけていく必要性を感じた。そこで、今回、指導計画の中に健康・安全の視点を取り立てて作成することにした。そうすることで、養護教諭の専門的な面も位置づけていけると考えたからである。

行事の視点について、幼児の自発的な遊び活動と、育ちを捉えた教師の意図的な活動を保育を展開していく上で両輪として重要視している私達にとって、行事は意義あることだということがはっきりした（P17、P20、P36、P59の事例）。日常の延長線上にあり、かつ、非日常性を併せ持つ行事を計画的に設定することは、やればできそうだけでも躊躇している幼児の背中をぽんと押してあげるようなものである。それぞれの幼児なりに、自分の力であるいは友達や教師に助けられながらやり遂げる経験は、大きな自信につながる。そのような場を保障していくことは重要であろう。

最後に、チーム保育の視点について、私達は日常的にチーム保育を行っているが、これを意識してみたときに、幼児の育ちや学びを保障していく上で極めて有効な教育方法だということが見えてきた。小田豊はチーム保育について「今、新たに求められる『チーム保育』とは、保育の展開、学級編成、教員組織の実情に応じて工夫し、それぞれの教師の持ち味を生かすことで、幼児が人とかかわり合って様々な体験を広げたり、深めたりすることが可能」なものであり、「一人一人の幼児に対して、きめ細やかで創意ある保育を進めるために新たに生み出された保育の形態」であるとし、チーム保育の基本的考え方や必要な条件などを述べている（小田豊 2002 幼児が育ち合う工夫の場としての「チーム保育」 初等教育資料 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集 東洋館出版社、pp86～92）が、このことも視野に入れながら、私達の考えるチーム保育を位置づけていきたい。

2. 月の指導のまとめより

(1) 月ごとにする理由

今年度私達は、月ごとに指導のまとめを行い、研究会で検討してきた。平成7年度に作成した指導計画は、教育課程と連動する形で期ごとにまとめられていた。一人一人の幼児の育ちを意識して作成されたからである。この視点が大切なことは今年度の事例検証からもはっきりしている。今回、月ごとにまとめていこうと考えたのは、幼児の育ちを大切にしながらも、これまでの研究の積み重ねの中で見えてきた、教師の意図的な活動を計画的に位置づけていく時に、

期ごとよりも月ごとの方が位置づけやすく、かつ、省察しやすいと思ったからである。指導計画は教師の側が省察しやすいものという側面も大事である。この点から見れば、生活の中で一区切りとなる月でまとめていくことで、教師も幼児も振り返り、新たに歩んでいこうとする意識がもちやすいのではないだろうか。実際に、「月が変わったから保育室にある絵本を変えようよ」という要求を出してきた5歳児の姿や、環境として保育室に設置してある月別カレンダーを見て、幼児なりに見通しをもっている姿からは、幼児らが月を一つの生活の節目として感じていることが伺われる。そこで、今回の再編成を機会に、月をひとくくりとした指導計画にしていくことにした。

(2) 週案の位置づけ

私達は日常の保育を展開していくときの足がかりとして週案を作成し、一日の保育を行い、省察している。これまでは案だけを記入してきたが、今年度新たに反省を記述する欄を設けた。もちろん、これまでも一日の保育を振り返り、記録をとってきたが、週案の中に位置づけることで、これまで以上に振り返りと翌日の保育への展望が意識されたように思う。また、個人レベルの振り返りが、学年レベル、園レベルの振り返りへとようになっていくことも以前に比べ増えたように思う。

このような週案は、指導計画に沿って作成されるが、逆に指導計画へのフィードバックの役割も果たしている。今年度は特にこのフィードバックの面を重視し、具体的な毎日の幼児の姿から週案へ、そして月の指導のまとめ作成へといった流れの中で週案の意義を見だし、活用してきた。

(3) 実際の週案および月の指導のまとめ

先に指導計画を月ごとにする理由および週案の位置づけについて述べたが、次ページから実際の週案および月の指導のまとめの一部を記載することにする。週案については各クラスと保健室からのもの、月の指導のまとめについては、各学年と健康・安全のものがある。

3. 今後の課題

今年度、研究会で持ち寄った事例を検討したり、事例をもとに日頃の幼児らの姿やこれまでの幼児の姿を話し合い、指導計画の再編成に向けて11の視点を確認したが、これらの視点を改めて見てみたときに質的な違いがあることを感じている。そこで、今後視点の質的な違いを明らかにし、カテゴリー化して指導計画に位置づけていくようにしていきたい。それと平行して、指導計画として直接文章化しにくい視点や特に重点を置きたい視点を明らかにし、園内で共通理解を図りながら当園ならではの指導計画となっていくようにしていきたい。その際、今年度は5領域を意識して月ごとのまとめを作成しているの、この点を生かしていくかどうかを考慮しながら指導計画を再編成していきたい。

加えて、私達が毎日の保育を展開する上で大事にしていること、つまり、幼児の自発的な活動と育ちを捉えた教師の意図的な活動を保育の両輪としていることを、指導計画を再編成していくときの視点と絡めながら構造化していけるよう、研究を積み重ねていきたいと考えている。

前週の幼児の姿

・保育室前テラスに設置したパラソルの周りに多くの幼児が集い、砂や水の感触を楽しんでいる。入園してからはほとんど園庭に出ることがなかったA児、B児らの姿も見られた。また、園庭のケヤキの木の根元から紙飛行機を飛ばし、風の心地よさを感じている幼児がいた。

・トイレの環境が新しくなったため、クラスでトイレの使い方の指導があった。幼児らは護衛教諭の話を真剣に聞き、自分なりに考えていた。実際に使うときにも、サンダルの履き替えや手洗いなども気を付けて使おうとする姿が見られた。

具体的なねらい

- 教師や友達と親しみ、一緒に遊ぶことを楽しむ
- 好きな場所やしたい遊びを見つけて遊ぶ
- 園庭の自然に触れ親しむ
- クラスのみんなと一緒に活動することを楽しむ

具体的な内容

- ・身の回りの始末がわかり、自分のことは自分でしようとする
- ・教師や友達と一緒に決めた園生活のきまりや約束を守りながら生活しようとする
- ・友達と同じ場所で遊んだり、声をかけ合って遊んだりする
- ・園庭の草花をこっそり摘み取り、虫をつかまえたりする
- ・砂、泥、水などの感触を味わう
- ・教師や友達の話や、自分の思ったことを話したりする
- ・教師や友達の話や、自分の興味をもち、かかわろうとする
- ・遊びに必要な物をつくらせたり、それを使わせて遊んだりする
- ・なりたいものになったり、見立てたりして遊ぶ
- ・教師や友達と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりして楽しむ
- ・自分の使った物を元の場所に返したり、遊んだ場所や遊具を教師と一緒に片づけたりする

環境の構成・再構成のポイント

- ・生活の具体的な場面できまりや約束をわかりやすく知らせたり、必要に応じて幼児と相談してきまりをつくらせたりする
- ・一人一人の生活する姿を捉え、自分でしようとしていることは大いに認め、自信につながるようにする
- ・顔育物と触れ合った後、衛生面に気を付ける
- ・クラスみんなで楽しく過ごす時間を大切に、教師や友達とのつながりを感じられるようにする
- ・園庭の自然にも目が向くように、教師も園庭に出て遊ぶようにした
- ・自然を利用した遊びを提示したり、みんなで一緒に過ごしていることが感じられるような言葉かけを心掛ける
- ・かいたりつくったりする楽しさが味わえるように素材を十分に用意しておく

予想される幼児の活動

- したい遊び
 - ・おうちごっこ
 - ・忍者ごっこ
 - ・紙飛行機とばし
 - ・砂、泥遊び
 - ・製作
- など

絵本や歌など

- 歌
- ・勇気100パーセント
- ・翼をください など
- 絵本や紙芝居など
- ・にんじやがやってきた
- ・パパだいすきさ！ など

- 教師が意図的に取り入れる予定の活動
- ・製作（父の日のプレゼント）
- ・表現遊び

6月 10日(月)	6月 11日(火)	6月 12日(水)	6月 13日(木)	6月 14日(金)	6月 15日(土)
8:45 ○登園する					
10:00 ○したい遊びをする					
11:00 ○牛乳を飲む					
11:45 ○表現遊びをする					
1:30 ○降園する					
行事など					
参観日					休業日
<ul style="list-style-type: none"> ・参観日のため、朝からそわそわしている幼児が多かった。いつもとは様子の違う一日だった。C児、D児は母親から離れられず、一緒に過ごしていた ・クララが家からカタツムリをもってきた。園庭のバツタをつかまえて来る幼児もいた。そこで、保育室に虫の観察コーナーを設けた。教師の幼児が集まり虫を見ながら話し合っている姿が見られた。しかし、虫の様子が気になり、そこかから離れられず、気持ちの切り替えがうまくできず、行動がおくれがちになる幼児がいる。幼児に合った気持ちの切り替えは難しいのだから。 ・汗の始末を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・父の日のプレゼントを仕上げた。母の日のプレゼントに顔をかけた経験があったこともあり、自分なりに思いをもった取り組みになっている幼児が多かった。5月より比べて、しっかりと顔を近づけていた。1ヶ月前との違いが見られて良かったと思った。 ・昨日、園庭の遊具の話をしたことを受けて、G児は「外に行ってきた。でも危ないから気をつけるね」と出かけていった。 ・園庭の虫をつかまえたり、フジの実を集めたりすることを楽しんでいるが、気温が高いため、何度か水を飲み保水室に戻ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりにクララジュンギアのイメージでH児、I児、J児らが遊び始めた。保育室のサークルを使い戦いを始めたので、両端にスタート地点を示すビニールテープを貼った。そこで気持ちも盛り上がり、合図を送る人、勝敗を決める人、応援する人など、一人一人思い思いの役を参加していた。H児は満足したようだった。H児は満足したようだった。H児は満足したようだった。H児は満足したようだった。 ・「ここで着替える」とスタート地点の中で着替えていた。このH児の姿は嬉しい。 ・気温が高かったため、園庭に出かけていた幼児もしばらくすると保水室に戻ってきて通っていた。汗を拭くように伝えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第48回教育研究会～初夏の会～ ・朝からたくさんの方がいらしたこともあり、戸惑いを見せる幼児が多かった。また、G児の隣の「幼稚園の先生」と、うれしさいっぱい、いつも以上にテンションが高くなっていく幼児もいた。 ・天候のいい日には、遊戯室を使わないで遊ぼうと、以前クラスで話し合った。しかし、K児、L児、M児らは、遊戯室で迷路づくりに楽しんでいた。顔見知りの教師が遊戯室にいたことで安心できたのではないだろうか。 		

記録 反省

前週の幼児の姿

・トイレの環境が新しくなる。それに伴い、トイレの使い方にクラス全員に指導があった。幼児らは、養護教諭の話を真剣に聞いていた。実際トイレを使う場面では、サンダルへの履き替えや手洗い等意識して使っている幼児が多かった。
 ・自分のつくったものをみんなに見せて欲しいと言いくる幼児が増えてきた(A児、B児、C児ら)。考えて工夫している所も多く、全体の場で伝えた。幼児らが「みんな」を意識し始めている育ちの段階にきつたと感じた。

具体的なねらい

- 教師や友達と親しみ、一緒に遊ぶことを楽しむ
- 好きな場所やしたい遊びを見つけて遊ぶ
- 身近な草花や虫などに触れ親しむ
- クラスのみ人などと一緒にする活動を楽しむ

具体的な内容

- ・身の回りの始末が分かり、自分のことは自分でしようとする
- ・生活に必要なきまきまりや約束を知り、守ろうとする
- ・友達と同じ場で遊んだり、声を掛け合って遊んだりする
- ・園庭で虫を採ったり、春の草花に触れたりする
- ・砂、泥、水の感触を味わう
- ・楽しんで飼育物とかかわる
- ・教師や友達の話を聞いたり、自分の思ったことを話したりする
- ・遊びに必要なものをつくったり、それを使って遊んだりする
- ・なりたいものになりきって遊ぶ
- ・教師や友達と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりして楽しむ
- ・自分の使ったものを元の場所に返したり、遊んだ場所や遊具を教師と一緒に片づけたりする

環境の構成・再構成のポイント

- ・触れあいを楽しんだり、思いを受け止めたりしながら幼児との絆を強くしていき、安定した園生活を楽しむようにする
- ・生活の具体的な場面で決まりや約束をわかりやすく知らせたり、幼児と相談して決まりをつくりたりし、生活がスムーズにいくようにする
- ・飼育物とかかわりは、衛生面に気をつける
- ・話を聞いてみようという思いを持てるように、ものを利用したり、クラスで友達の名前を出したりする
- ・かいたついたりする楽しさを味わえるように素材は充分に用意しておく
- ・みんなで忍者になって同じイメージで遊んだり、歌を歌ったりして、クラス全員で楽しく過ごす時間を大切にしている
- ・教師間の連絡を密にし、幼児が気に入った場所ですぐに過ごせるように配慮する

予想される幼児の活動

- したい遊び
- 砂、泥遊び
- 固定遊具での遊び
- 生き物との触れ合い
- 忍者ごっこ
- 製作

- 教師が意図的に取り入れる
- 予定の活動
- 製作(父の顔)
- 忍者遊び
- 保健指導

歌、絵本など

- ・歌
- 翼をください
- 勇氣100パーセント など
- ・絵本、紙芝居など
- じゅもんはとんとんまるまる など

6月 10日(月)	6月 11日(火)	6月 12日(水)	6月 13日(木)	6月 14日(金)	6月 15日(土)
8:45 ○登園する					
10:00 ○したい遊びをする ○かたづけ ○牛乳を飲む ○忍者ごっこをする ○降園する	○父の日のアパルトをつくる ○弁当を食べる		○紙芝居を見る		
11:00					
12:00					
1:30					
行事など					
記録 反省					
<p>・藤の実をとって、ビニール袋に入れて、さらに水を入れることが流行した。D児とE児が保育室の中でほおほおと話を話しかけ、自分の考えがクラスのルールとなっていくことを意識できると願っていたが、もう一人一人の考えを引き出すような場があればよかった。 ・忍者ごっこをした。F児が家から巻物を持ってきたことがきっかけだったが、幼稚園と家庭の間で、気が持たずに行き来している姿が見られ、うれしかった。</p> <p>・かたづけの時、製作で出た紙切れや段ボール片が保育室中に散らかっていたので、全員を集める場所を作った。年中児には少し難しいと思いがら、床に落ちているものに気づいたら自分のものでなくても拾って捨てたり、まだ使えるものとゴミを自分なりに分別することを伝えた。これからは言い続けていく必要がある。</p> <p>・父の日の顔の絵は、教師が思っていた以上に素早くかく子が多かった。もう少し、イメージを影射させる援助が必要だったと反省している。枠があるとかきやすいということが分かった。</p> <p>・全体の場で伝えたこと G児、H児の作品紹介 園庭の固定遊具を使うときの約束 靴下でいると危ないこと(養護教諭より) ・父の日のアパルトを仕上げる。I児、J児、K児が用意の段階で保育室を出て遊戯室の倉庫で遊んでいた。声かけるとK児はすぐに戻ってきた。声かけると二人は遊び続けていた。二人の育ちを考えると無理もないと思いがら、クラス全体の活動時に教師に何も言わずに出ていく、何かがあったときにすぐに助けられないよ、ということ伝えて伝えた。</p> <p>・連日の暑さで幼児も少し疲れた味。注意散漫でケガにならないように安全面に気をつけてかかわるようになった。 ・かたづけから着替えて牛乳を飲み始めるまでの時間が個人個人でかなりと、一緒に有意義に楽しく過ごすことを、もう少し考える必要がある。 ・A児と一緒に手裏剣をつくる。「せんせいにつけて」とせがんできた。A児は遊び続けていた。そのことが牛乳タイムで話題になり、児の「光るよ」ところ見たよ」という一言で、みんなも見よう」と試みた。しかし、砂は光らず、どうしても見たいとP児は泣き出してしまった。隣園時聞が迫ったこともあり、教師の見通しの甘さを反省した。</p>					
<p>第48回教育研究会～初夏の会～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児らの声かけを受け、L児、M児、N児、O児らと一緒に園庭に出取りに出かける。ダンゴモンやパットのあかちやんなどを幼児たちが一生懸命見つけていた。掴むことができない幼児は意外と少なく友達を捕まえたものを見せられて満足していた。 ・I児がかたづけの時に「ががが」外を見つけた。そのことが牛乳タイムで話題になり、児の「光るよ」ところ見たよ」という一言で、みんなも見よう」と試みた。しかし、砂は光らず、どうしても見たいとP児は泣き出してしまった。隣園時聞が迫ったこともあり、教師の見通しの甘さを反省した。 					

前週の幼児の姿

ワールドカップサッカーの盛り上がりには刺激され、A児、B児、C児らがつき組男児らと毎日サッカーを楽しんでいる。「オーレ・チャンプ」のCDをかけてとより張り切り切っけてボールを蹴ったり走ったりしていた。また、D児、E児ら女児が音楽に合わせてポンポンをふりながら応援する姿も見られた。
 ・トイレ使用の約束が変わった(履き物を替えて入る)が、戸惑うことなく新しい約束を守ろうとしている。履き物が乱れることもあるが、気が付いた幼児がさりげなく整える姿も見られる。

具体的なねらい

- 遊びや生活の中で、自分なりに目的をもって活動しようとする
- 戸外での遊びに進んで参加し、のびのびと体を動かしたり、自然に触れたりして遊ぶ
- 友達や教師と思いを伝え合いながら、遊びや生活を進める楽しさを味わう
- わくわくワールド(宿泊体験)について知り、期待をもつ

具体的な内容

- ・5歳児としての自覚を強め、自分なりに見通しをもって生活する
- ・自分の係の仕事に進んで取り組む
- ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わう
- ・教師や友達とイメージを共有しながら遊ぶ
- ・使い慣れた素材や遊具を遊びに取り入れたり、工夫して使ったりする
- ・水や泥、園庭の草花などを使って遊ぶ
- ・水の流れを意識しながら水路をつくる
- ・感じたことや自分の考えなどを友達に話したり、友達の考えを聞いたりする
- ・わくわくワールドについての話を聞いたり、自分達が出来るようなことを話し合ったりする

予想される幼児の活動

- 楽しい遊び
 - ・アツパ-屋さんごっこ
 - ・水路づくり
 - ・サッカー
 - ・製作
 - ・忍者ごっこ
 - など
- 教師が着眼的に取り入れる
 ・予定の活動
 ・チームゲーム
 ・わくわくワールドについての話し合い

絵本、歌など

- ・絵本など
- ふしぎなきゅうり
- 月刊誌
- など
- ・歌
- 翼をください
- など

環境の構成・再構成のポイント

- ・見通しをもったり、安定した気持ちで生活できるように、それぞれの遊びの様子を伝え合ったり、生活の流れを確認したりする場を設定する
- ・自分で見通しや目的をもって遊びや仕事に取り組みようとしている姿を認め、5歳児として自覚のイメージを遊びの中で表現できるようにする
- ・幼児が自分のイメージを遊びの道具や用具などを使って表現できるように、教師も幼児と一緒に遊ぶ
- ・自分の思いを伝えながら遊びを進めようとしている姿を認め、伝わりにくい時は、教師が仲立ちをして互いに思いが理解し合えるように援助する
- ・昨年のわくわくワールドの様子を写真や実際にあったもの(オリエンテーリングの地図、しおりなど)を見せながら話す

6月 10日(月)	6月 11日(火)	6月 12日(水)	6月 13日(木)	6月 14日(金)	6月 15日(土)
8:45 ○登園する					
10:00 ○したい遊びをする					
11:00 ○牛乳を飲む					
12:00 ○チームゲームをする					
2:00 ○降園する					
行事など					
記録 反省	<p>サッカーでは昨日得点板が入ったことで、試合をしているつもりが味方とわかれた。また、得点板をすする幼児が出てきた。 ・アツパ-屋さんの遊びが停滯してきたので教師から「つくり方を教えてあげよう」を教えた。期待する姿が見えなかった。 ・何があっても、明日に期待したい。しふりにアツパ-を弾いていた。 ・新しい遊びにならなから、チーム対抗のつぎ組と合同で4チーム対抗のつぎ組と合同で、始める前にルールを確認したり、試合中に勝敗を決めたりした。暑い中ではあったが集中して楽しむことができた。</p>	<p>わくわくワールドで取り組む係を決めた。普段の話し合いより真面目に話を聞こうとする姿が見られた。</p>	<p>生活の流れが早いので、朝のついでに時間やかたづけ後の活動の見通しをいっしょに確認するようにした。遊具をたくさん使っている幼児の中には、時間の少ない前かたづけの開始、遅れないようにしている幼児もいた。 ・着替えシートを敷く位置を椅子を並べるスペースと重ならないようにしてみた。早く着替え終わっていた幼児が椅子を並べることができた。その周りで着替えをしている幼児がいる中、早く座った幼児ははしりとりをしをしてみんなが集まるまでの時間を過ごすことができた。</p>	<p>生活の流れが早いので、朝のついでに時間やかたづけ後の活動の見通しをいっしょに確認するようにした。遊具をたくさん使っている幼児の中には、時間の少ない前かたづけの開始、遅れないようにしている幼児もいた。 ・着替えシートを敷く位置を椅子を並べるスペースと重ならないようにしてみた。早く着替え終わっていた幼児が椅子を並べることができた。その周りで着替えをしている幼児がいる中、早く座った幼児ははしりとりをしをしてみんなが集まるまでの時間を過ごすことができた。</p>	<p>参観者が立つことでそれぞれの遊びの様子を見ることが難しくなるかと予想されたので、T教師との動きの連携を意識しながら保育するように心がけた。 ・水路遊びでベントポトルを長くつなげてきたが、今日、実際に築山パトタッチした。しかし、それまで遊びにかかっていた経緯やその遊びの中心になっていたF児のかかわり方が良かったのか・・・。</p>
				第48回教育研究会初夏の会	

前週の幼児の姿

- ・朝、ぐずったり、母親と離れられない幼児が特定されなくなってきた。しかも、長時間尾を引くことはなくなってきた。
- ・自分で遊びが見つけられず、保健室に来る幼児の他、夢中に遊んだ後一息つきに来室する幼児がではじめた。
- ・戸外で活発に遊んでいることによるけがが増えた(木曜日17人)。化粧しかけているような傷も見かけるようになってきた。
- ・大袈裟な処置を求める幼児や逆に必要な処置を拒否する幼児が多い。物を水で洗うことをいやがる幼児が多い。
- ・これまでできなかつた固定遊具に挑戦しようとする幼児が多くなってきた。時には能力以上の挑戦を試み助けを求める幼児もいる。
- ・先週からトイレの環境が変わったため、戸惑う幼児やスリッパの扱いに慣れない幼児がいる。また、トイレでの手洗いは先週指導をしたが定着はしていない。声かけにはすぐ反応する。
- ・外から帰った後や牛乳前の手洗い・うがいなど声かけに対してすぐに反応するようにはなしたが、自主的にする幼児はまだ少ない。
- ・気温が高くなり、汗をかき幼児が増えた。汗の始末はまだまだまだできない。
- ・腹部症状(腹痛、嘔吐、下痢など)による欠席が多い。
- ・いくつかの伝染病(溶連菌感染症、水痘)の発生も見られた。他児への感染は今のところない。
- ・4歳児は全員が体操服に着替えるようになり、まだ3週目である。スムーズに着替えができなかつたり、着替えに抵抗を示す幼児がいる。
- ・歯科検診後、弁当後の歯磨きを自主的に丁寧に丁寧にする幼児が増えた。

具体的なねらい

- ・トイレのマナーを守る
- ・手洗いの習慣を身につける
- ・汗の始末をしようとする
- ・水分の補給を考える
- ・安全に気をつけて遊ぶ

具体的な内容

- ・戸外で汗をかいた後の汗の始末をする(汗を拭いたり、着替えたり)
- ・必要に応じて水分の補給(適当な量を与える)。衛生的に水分の補給をする(自分のコップを使う、蛇口に口を付けない)。
- ・トイレのマナーを守る
- ・トイレで遊ばない
- ・靴の脱ぎ方やスリッパの扱い方(スリッパをそろえたり、自分にあったものを選択したり)
- ・トイレで石鹸で手を洗、自分のハンカチで拭く(伝染病予防)
- ・遊んだ後、食事の前、トイレの後、汚れたときなど自分で考え手洗いを
- ・手を洗った後、自分のハンカチで手を拭き、きちんとたたんでポケットに入れる。ハンカチの貸し借りはしない(伝染病予防)
- ・安全に気をつけて(約束事を守って)固定遊具を使用する
- ・けがをした場合、適切なけがの処置を受ける。また、けがをしてしている幼児を見つけた場合はばい菌に感染しないよう適切な処置を受ける

環境の構成・教師の援助

- ・汗をかいたときなど教師自ら汗の始末をする。その時、幼児にも声をかける。汗をかいていることを自覚していない幼児には汗がでている箇所を具体的に示したり、服の濡れ具合を知らせたりしながら汗の始末を促す。
- ・汗をかいた後の水分補給を個々に促す。その時衛生的に水分補給ができるよう手洗い、コップの管理、蛇口の扱いなど個別に具体的に教える
- ・気温が上がるとともに塩業濃度が下がっている。基準以下になった場合、水道水飲水の中止の指示をする
- ・トイレの様子を観察しながらマナーが守れていないことについて個々に具体的に示す。また、マナーを守っている幼児の具体的な内容を全体で紹介したりしながら広めていく
- ・手洗いについても場面を配る手洗いを促す。特にナメクジ、カエル、カタツムリなどを捕まえ遊んでいる幼児には気を配る。手の洗い方、ハンカチの扱いなど個々に指導する。教師自らが一緒に手洗い自分のハンカチで手を拭く様子を見せる。自主的にできている幼児の姿を全体の場で伝えていく
- ・ハンカチの貸し借りをしている場面では幼児の履し気持を認めながらも伝染病の予防のためにはよくないということを伝える
- ・固定遊具などにチャレンジしている幼児を見守り、危険を感じた場合個々に指導する
- ・けがをした場合、適切な処置の必要性をここに伝えていく。

6月 10日(月)	6月 11日(火)	6月 12日(水)	6月 13日(木)	6月 14日(金)	6月 15日(土)
<ul style="list-style-type: none"> ・病気8人、相談3件 ・トイレは常に頭場を促し指導しながら手洗い、スリッパをそろえらるなどできない。先週指導したためかちよつとの声かけですぐ反応する(4歳) ・牛乳前の手洗いはクラスの2/3が声かけが必要。洗い方は丁寧に出来るようになってきている ・先週汗の始末の指導をしたがほとんどの幼児が忘れてしまったよう ・A児：すぐに手が出る。4人 ・M児：はじめてとつとつみあい ・N児：キズバン化しかけ、報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気17人、相談3件 ・トイレのスリッパが4歳はそれほど乱れていないが5歳はグチャグチャ。 ・5歳も現場を促しての指導があるのだらうか? ・4歳は丁寧に脱ぐ。5歳は脱ぐときに蹴散らしている。 ・今日は体操服が脱ぎにくくなるほどの汗をかいている幼児がいた。着替えの時裸になって全身をタオルで拭いていない幼児をみんなに披露すると次々にまねを始めた(すみれ組)。 ・ウルトラユニオンに挑戦するが降りられない幼児がいた ・伝染病発生(水痘、ヘルパンギーナ) ・O児：P児保健室で遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気9人、相談2件 ・トイレのスリッパについて乱れているのを直すだけでなく、乱れながら遊ぶのを指す ・靴下履きで行動すると危険なことを頭脳打撃の事柄をあげ指導する ・Q児「足の痛み」をきっかけにかかわりを持ってくる ・R児いるんな手を施しかかわりを待とうとする ・S児、T児「帰りたい〜」 ・A児(U児・V児・W児・X児)の被害あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気14人、相談1件 ・登園するなりからX児・Y児・Z児が遊びに誘いに来る。途中遊びたくない」とa児・b児も来る。虫取りに誘ったところ興味を示す。片づけ時「明日も行くね」と約束取り付けられる。→担任と連携 ・A児の被害(U児・c児ら)あり 	<p>保護者へ：・伝染病(出血性大腸菌感染症)の予防について伝える(手洗いについて)</p>	

- 心身の状態に配慮が必要な幼児
- A児 骨折後の跛行あり。運動制限なし。すぐに手が出る。登園渋り気味
 - B児 骨折。すぐ手が出る
 - C児 骨折
 - D児 トイレ継続観察中
 - E児 腹痛(精神的なもの?)頻繁に訴える
 - F児 家で登園を渋るが園ではそんな素振りを見せない。
 - G児 おうちにかえりた〜い と訴えたり、お友達にまわりつき拒否されたりしている。
 - H児 教師、幼児問わずスキシップを求める
 - I児、J児、K児 マスターベーション?
 - L児 悪化、内服中

幼児の姿

- ・暑い日には、水遊びを楽しむ幼児が多い。中には着替えが一人でできないため、水遊びをためらう幼児もいる
- ・懂れのものになって遊びながら、同じイメージをもって遊んでいる友達に気付くようになる
- ・同じ友達と一緒に遊ぶことを楽しんだり、同じ場で遊ぶことを楽しみにしたりする姿が見られるようになってくる
- ・5歳児に誘われて、5歳児の遊びにお客さんとしてかかわったことがきっかけで、同じものをつくってみようとする幼児がいる
- ・自分の思いが通らないと友達をたたいたり大声で泣いたりしてトラブルが起きる。その様子を見て「怖い」と言ったり「僕がやっつけてやる」と言ったりする幼児もいる
- ・雨が上がると、園庭にダンゴムシやバッタ、カタツムリなどを探して行く幼児が多い。
- ・製作コーナーで、5月に引き続き、ハサミで切ったりのりを使ってつくることが楽しんでいる。中には自分のイメージを表そうとする幼児も出てきた

ねらい

- ・手伝ってもらったり、知らせてもらったりしながら、幼稚園の生活の流れが分かる
- ・教師や友達と触れ合って遊ぶことを楽しむ
- ・身近な遊具や素材に親しみながら、自分のしたい遊びをやってみてみたいことを見つけてする
- ・梅雨期の自然に興味をもって見たり触れたりする

健康

- ・登降園時の始末や準備の仕方がわかり、自分なりにやってみようとする
- ・裸足になって土や泥の感触を味わう
- ・雨具の始末の仕方を知る

人間関係

- ・教師や友達と一緒にいることに気付く
- ・教師や友達と一緒にいることを楽しむ

環境

- ・遊具や用具の安全な使い方（蹴ったり投げたりしないこと、はさみの持ち方など）を知る
- ・自分の好きな遊具や用具とかわかって楽しむ
- ・気に入った場所やしたい遊びを見つけて遊ぶ
- ・雨音に気付いたり日ざしの強さを感じたりする

言葉

- ・水の感触を楽しみながら水遊びをする
- ・してほしいことや困ったこと、嬉しいことなどを動作や言葉で教師に伝えようとする
- ・教師や友達と一緒に過ごしながら、生活や遊びに必要な言葉やルールを知る

表現

- ・教師と一緒に絵本や紙芝居を見たり、歌を歌ったりする
- ・好きなものになって遊ぶ
- ・身近な素材に触れ、つくったりかいたりすることを楽しむ
- ・身近な素材を使って父の日のプレゼントをつくる

環境の構成 (○)
教師の援助 (◎)

- ◎幼児の遊びや動きを受け止めながら、安心感をもたせると共に、危険なことや他に迷惑をかけることを頼まなければならないことを伝える
- 水遊びを楽しむようにプールを出したり、空容器などを準備したりする
- ◎遊ぶ楽しさや友達と一緒にいる楽しさを感じられるように、教師も遊びの中に入り盛り上げたり幼児同士の仲立ちをししたりする
- ◎トラブルでは遊びが続いていくようであれば見守り、そうでなければ互いの思いを代弁するようにする
- ◎雨音や太陽の日ざしに教師自身が敏感に反応したり、幼児の気付きに共感したりする
- ◎幼児が自分の思いを態度や言葉で伝えようとしている時は、幼児が伝えやすいように、表情や身振りなどから察したり、優しく問いかけたりする
- ◎生活に必要なまきまきや言葉があることに幼児らが気付いていけるように、教師自らが生活に必要な言葉を使ったり、順番を守ったりする
- イメージをもって遊びを楽しむように、いろいろな面などの小道具を準備し、幼児が使いやすいように置いておいたり教師が使ってみせたりする
- 身近な素材に触れて好きなものがつくれるよう、十分な量を製作コーナーに置いておいたり、要求に応じて出してきたりする

内容

- ・登降園時の始末や準備の仕方がわかり、自分なりにやってみようとする
- ・裸足になって土や泥の感触を味わう
- ・雨具の始末の仕方を知る

- ・教師や友達と一緒にいることに気付く
- ・教師や友達と一緒にいることを楽しむ

- ・遊具や用具の安全な使い方（蹴ったり投げたりしないこと、はさみの持ち方など）を知る
- ・自分の好きな遊具や用具とかわかって楽しむ
- ・気に入った場所やしたい遊びを見つけて遊ぶ
- ・雨音に気付いたり日ざしの強さを感じたりする

- ・水の感触を楽しみながら水遊びをする
- ・してほしいことや困ったこと、嬉しいことなどを動作や言葉で教師に伝えようとする
- ・教師や友達と一緒に過ごしながら、生活や遊びに必要な言葉やルールを知る

- ・教師と一緒に絵本や紙芝居を見たり、歌を歌ったりする
- ・好きなものになって遊ぶ
- ・身近な素材に触れ、つくったりかいたりすることを楽しむ
- ・身近な素材を使って父の日のプレゼントをつくる

意図的活動

- ・製作（父の日のプレゼント、水鉄砲）

行事など

- ・土曜参観

補助資料等

- 歌・手遊び・コミュニケーションのてんきよぼう、たんじょびびび、すてきなハハ、おむすびすつとんとん
- 絵本など・・・月刊誌、10ひきのかえるシリーズ
- 紙芝居・・・うさぎとながぐつ、ラビちゃんのおたんじょうび、ながぐつだいすき、おむすびころりん
- 素材・・・5月+洗剤の空容器、ビニールテープ
- 用具・・・5月に同じ
- その他・・・I777777

幼児の姿

- ・教師や友達と同じものをつくったり、同じイメージをもって遊ぶことを楽しむ幼児の姿が引き続き見られる
- ・遊戯室やテラスで、大型遊具を使って遊ぶとする幼児が増えてくる
- ・遊びに必要なものをつくったり、つくったものを使って遊ぶようになったりする
- ・砂・泥・水の感触を楽しんだり、どろんこになって遊ぶことを楽しむ姿が見られる
- ・園庭の生き物を見ついたり、フジの実などを集めたりする
- ・相手に言葉で自分の思いを伝えようとすると幼児の姿が、引き続き見られる

ねらい

- ・教師や友達と一緒に遊んだり活動したりすることを楽しむ
- ・身近な遊具や素材などを自分の遊びに取り入れて遊ぼうとする
- ・園庭の自然に触れ親しむ

健康

- ・自分でできることは自分でしようとす
- ・したい遊びを見つけて遊ぶ

人間関係

- ・教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- ・みんなと一緒に過ごす時間を楽しむ
- ・友達のことを名前と呼ぶ

環境

- ・教師が提示した環境に興味をもつてかわる
- ・砂、泥、水などの感触を味わう
- ・園庭の草花を集めたり、生き物をつかまえたりする

言葉

- ・教師や友達の話の聞いたり、自分の思ったことを話したりする
- ・遊びの中で自分の思いを言ったり、相手の思いに気づいたりする

表現

- ・教師や友達と一緒にイメージしたものになりきって遊ぶ
- ・遊びに必要なものをつくったりそれを使って遊んだりする

環境の構成 (○)
教師の援助 (◎)

- ◎ マルチバナ、箱積み木などを使って遊ぶ幼児には、安全に留意しながら使うよう促す
- みんなで同じものをつくったり、歌を歌ったりなどクラスみんなで楽しく過ごす時間を大事にする
- 友達とより親しめるように、スキミングを取り入れた活動を設定する
- 園庭の自然に目が向くように教師も園庭に出て一緒に遊んだり、自然を利用した遊びを提示したりする
- ◎ トラブルが起きた時など、互いの思いを聞き合ったり、気持ちを伝えたりするよう仲立ちする。場合によっては、どうしたらいいかを一緒に考える
- 幼児らがつくりたいものをつくることのできるように、素材を十分に準備しておく
- ◎ 教師がモデルとなって遊びのイメージを共有化したり、広げたりする

内容

- ・製作 (父の日のプレゼント、水鉄砲)

意図的活動

行事など

- ・土曜参観

補助資料等

- ・歌・手遊びなど・・・だからあめふり、ひっこしかたつむり、でんでんむしかぞく
- ・絵本など・・・月刊誌、カエルの101ちゃん
- ・紙芝居・・・パパだいすきさ！、はにげちゃった！
- ・素材・・・5月+ビニールテープ
- ・用具・・・5月に同じ
- ・その他・・・

幼児の姿

- ・自分の係の仕事に進んで取り組んでいる
- ・サッカーなどのボール遊びに興味をもち、楽しんでる
- ・気の合う友達同士で同じ目的をもち、遊ぶことを楽しんでいる
- ・3 歳児や 4 歳児を自分達の遊びに誘う姿が見られる
- ・いろいろな遊具や素材を工夫して使いつながりながら遊びの場や遊びに必要なものをつくらしている
- ・自然物（土、水、植物）の特性に気付き、自分達の遊びに取り入れようとしている
- ・話し合いの場などで自分の思いを伝えようとする幼児が増えてくる
- ・わくわくワールドに向けての係活動などに積極的に取り組み、楽しみに待つ幼児が多い
- ・わくわくワールドに参加し、いろいろな活動に意欲的に取り組み、自分なりの力を精一杯発揮している。その一方で、家族から離れ、不安を感じながらも頑張ろうとしている幼児もいる

ねらい

- ・自分なりに目的をもって、遊びや活動に取り組み
- ・友達や教師と一緒に考えを伝え合いながら、遊びや生活を進める楽しさを味わう
- ・梅雨期の自然に興味をもち、触れたり、遊びに取り入れたい

健康

- ・戸外での遊びに進んで参加し、戸外で過ごす楽しさを味わう
- ・5 歳児としての生活の仕方を身につけながら、自分なりに見通しをもって生活する
- ・友達と一緒にいる遊びに興味をもち、してみる
- ・友達と一緒に、いろいろな活動に取り組む
- ・3 歳児や 4 歳児と一緒に遊んだり困っていたら助けてあげたりする
- ・状況に応じて、必要なまきまきや約束などを話し合って決める
- ・身近な素材を遊びに取り入れられたり、工夫して使ったりする
- ・いろいろな素材に触れ親しむ
- ・梅雨期の自然に興味をもち、見たり、触れたり、調べたり、遊びに取り入れたい

人間関係

環境

言葉

表現

環境の構成 (○)
教師の援助 (◎)

- のびのびと安定した気持ちで生活できるように、時間や場の設定にゆとりをもたせる
- ◎生活の中で、その子なりに努力している姿を認め、評価し幼児が自信をもって行動できるようにする
- 3, 4 歳児と接する機会に一人一人が自分の成長を自覚できるような言葉かけを心がける
- 自分の思いを相手に伝えようとしている姿を認め、伝わりにくい時は、教師が仲立ちして互いの思いが理解し合えるように援助する
- 教師も一緒に遊びながら、一人一人と絆をつくったり、幼児同士のつながりのきっかけをつくったりする
- ◎生活の中の具体的な場面で、生活に必要な決まりや約束を新たに決めたり、再確認したりする
- よく使う道具や素材などは自分達で出し入れしたり、使ったりしやすいうちに置いておく
- ◎公共の施設を利用する時は、マナーやルールについて伝え、幼児なりに意識して行動できるように働きかける
- ◎教師も積極的に戸外に出て、のびのびと遊ぶ心地よさを幼児と共に味わうようにする
- ◎動植物の世話を積極的に行えるように、幼児の吆きや思いを聞きながら教師も一緒にいかかわるようにする
- 興味関心のもてる歌や、絵本・紙芝居などを準備する
- 幼児一人一人の表現方法を大切に見守ったり、教師も一緒に表現活動をしたりして幼児のイメージがより膨らむようにする

行事など

わくわくワールド (宿泊体験)

内容

- ・戸外での遊びに進んで参加し、戸外で過ごす楽しさを味わう
- ・5 歳児としての生活の仕方を身につけながら、自分なりに見通しをもって生活する
- ・友達と一緒にいる遊びに興味をもち、してみる
- ・友達と一緒に、いろいろな活動に取り組む
- ・3 歳児や 4 歳児と一緒に遊んだり困っていたら助けてあげたりする
- ・状況に応じて、必要なまきまきや約束などを話し合って決める
- ・身近な素材を遊びに取り入れられたり、工夫して使ったりする
- ・いろいろな素材に触れ親しむ
- ・梅雨期の自然に興味をもち、見たり、触れたり、調べたり、遊びに取り入れたい
- ・公共の施設での行動の仕方を知る
- ・絵本や紙芝居を見たり、教師の話を見たりして、興味関心を広げる
- ・友達や教師の話をもっと聞き取りたい
- ・感じたことや考えたことを相手に分かるように話す
- ・自分のイメージをいかいたりつくったりして表現する
- ・友達と一緒に歌を歌ったり、踊ったりすることを楽しむ

意図的活動

わくわくワールドに向けての活動
製作 (壁面、父の日7°ペント)
チームゲーム

補助資料等

歌・手遊びなど・・・今月の歌、燃えろよ燃えろ、サッカーの輪唱
絵本など・・・月刊誌、しずくのぼうけん、こんには6ちゃん、国旗の絵本
紙芝居・・・ふしぎなきゆうり、雨の日はやさしく、すじぐるるのぼうけん
素材・・・5月+ピース、ベットのボトル
用具・・・5月に同じ
その他・・・前年度わくわくワールドの資料 (写真、オリエンテーリング地図など)

幼児の実態

- ・手洗い、うがいを自主的に実施する幼児が増えてきた。それと同時にハンカチタオルの共用が目につくようになってきた。
- ・汗をいっぱいはいかいて遊ぶ幼児が増えてきた。しかし、汗の始末は十分ではない。汗をかいていることに気がついていない幼児もいる。
- ・汗をいっぱいはいかき、顔を紅潮させていながら適度な水分補給をしようとする幼児は少ない。声をかけられ始めて水分補給をする幼児や生水を飲むことに抵抗を示す幼児がいる。
- ・戸外での遊びが活発になり、土で汚れたキズを負う幼児が増えてきた。
- ・じめじめした気候や汗などでキズが汚染さえやすくなってきている。その上、いつまでもキズバンを貼りっぱなしにして見かけるようになってきた。化膿しかけている原因がキズバンにあることを知っている幼児はほとんどいないがその場で教えることで、キズバンを要求しなくなる。
- ・気候の関係もあり、トイレの悪臭がひどくなる。原因に和式トイレや男児の便器に漏らさず上手にできない幼児が多いことにある。悪臭がするこの時期にトイレの指導は効果的である。
- ・歯科検診をきっかけに歯に興味、関心を持つ幼児が増えてくる。また、「昨日歯医者さんに行ってきた」などの会話をよく耳にするようになる。
- ・宿泊体験（5歳）
宿泊体験を前におねしよの心配や家から離れることでの不安などから楽しみ半分、不安半分で不安定になっている幼児がいる。中には嘔吐発作が起きたり、アトピーが悪化したり、夜尿、頻尿が出たりしている幼児もいる。

ねらい

- ・0-157の予防のためにできることをする（手洗いの徹底、ハンカチ共用をしない、トイレでのマナーを守る）
- ・汗の始末をしようとする
- ・適度な水分補給ができる
- ・適切なけがの対応ができる
- ・虫歯予防に関心を持つ
- ・宿泊体験を楽しむ（5歳）

内容

- ・牛乳や食事の前、進んだ後、トイレの後、手が汚れた時など場合を考え自主的に適切に手洗いをする
- ・ハンカチを携帯し、自分のハンカチで手を拭く
- ・トイレの後にはトイレで手洗いを済ませる
- ・トイレに入る時、きちんとスリッパに履き替える。また、スリッパの始末をきちんとする
- ・家庭であまり使い慣れない和式トイレや男児用便器の使い方を知り、適切に使用する
- ・汗をかいていることを自覚し、汗を拭いたり、服を着替えたりしようとする
- ・汗のかき具合により適度に水分補給をしようとする。また、水を飲む時は自分のコップで水を飲む。蛇口から直接水を飲む時は蛇口に口をつけないようにする
- ・泥などで汚れたけがに対して、水洗いをしようとする
- ・キズバンの音を知り、必要以上にキズバンを貼らないようにする。貼ったときは長時間貼らないよう心掛ける
- ・虫歯予防にはブラッシングの他、生活、運動などいろいろなことが関係していることを知る。
- ・食後（弁当後）の歯磨き習慣を身につける。弁当時に自分の弁当の中に歯によい食べ物を鼠つけたりしながら、具体的に考える（4、5歳）

環境の構成 (○)
教師の援助 (◎)

- ◎自主的に手洗いができている幼児に気がつき手洗いをしようとする幼児が増えるような声掛けをしたり、手洗いに気がつかない幼児には個々に声をかけたりする
- ◎自分のハンカチで手を拭くことの必要性を話す。ハンカチの共用を見た時には自分のハンカチを使用するよう言う
- ◎トイレのマナー（手洗い、スリッパ、使用方法、その他）について話すと同時に現場で直接指導する
- ◎汗を拭くためのタオルが引き出しに入っているかまたきちんと持ち帰っているか確認する
- ◎汗をかいていることを自覚していない幼児にはそれを指摘しながら、拭き方、拭く箇所など教える。また、いろいろな拭き方や汗が出る場所があることなどを知らせるため、汗を工夫して拭いている幼児を他の幼児に知らせる
- ◎蛇口に口をつけて水を飲んでいる幼児には蛇口に口をつけてはいけないことを知らせ、口をつけない方法を教えたりコップで飲むよう勧めたりする
- ◎泥や汚れがついているけがをしてきた幼児には水洗いの必要性を知らせながら、洗い方を教える。
- ◎けがをしてきた幼児にはキズバンの効果と音を知らせ、貼るか貼らないか考えさせる。貼る場合、とる時期を具体的に知らせ、とったかどうか確認する
- 「歯によい食べ物、悪い食べ物」の掲示をし自ら考えたり、興味を持ったりできようようにしておく。また、保健室には虫歯や歯に関する絵本などを置き、正しい情報を得たり、興味を広げたりできようようにしておく
- ◎弁当時個々に歯によい食べ物を指摘し、具体的に歯によい食べ物を考える機会とする。また、噛むことの必要性についても話す。
- ◎弁当後は歯磨きを促したり、個々にあった磨き方を指導したりする

[保護者への指導・援助]

- ◎検診後異状の疑いのある幼児には専門医の受診を勧める
- ◎キズバンの管理について保護者に指導する
- ◎宿泊体験について：おねしよや葉その他の慢性的病気や持病などについて保護者とともに考え、個々に適切な対応をする。精神的に不安定になっている幼児についての対応をもとに考える。

行事等

宿泊体験の健康調査

- ・耳鼻科検診
- ・内科検診
- ・歯科検診
- ・避難訓練
- ・安全点検